

令和7年度 高松市議会まちづくり対話会 ～総務常任委員会 投票環境の向上について～

日時：令和8年1月23日（金） 午後2時～午後3時35分
会場：高松市議会 第1委員会室

【開会】

杉本委員長の司会で、高松市議会まちづくり対話会を開会いたしました。

まず、所管事務調査（毎年度、各委員会の所管に係る政策的なテーマを設定し、1年間を通して調査・研究を行い、市当局に対して政策提言を行うもの）の概要を説明した後、オープニングトークを行っていただく香川大学法学部長の堤教授の紹介を行いました。

【オープニングトーク】

「投票・棄権はどのように決まるか?」「投票コストの低減と投票参加」「広義の選挙啓発と投票参加」の内容で、堤教授からオープニングトークを行っていただきました。

E B P M（証拠に基づく政策形成）の趣旨を踏まえ、投票に対する投票環境や広義の選挙啓発の効果を検証した研究の結果を紹介しながら、有権者の投票促進を目指した投票環境の向上を検討する上で参考となる話題を御提供いただきました。



オープニングトークの中では、主に下記のことを御教示いただきました。

- ・投票することで得られる効用や自分の票が選挙結果に影響を及ぼす確率を伸ばしていくには限界があることから、いかに投票することにかかるコストを小さくし、投票に行くことで得られる喜びを大きくするかが大切。
- ・期日前投票の定着により、期日前投票所での投票者が増加傾向だが、それを整備することで投票率を上昇させる効果は小さいものとどまる。利便性が高い場所への設置には投票率を高める効果がある。⇒場所・環境によって効果が異なる。
- ・選挙啓発が投票率を高める効果については、肯定的な検証結果と否定的な検証結果が混在⇒一概に断定することはできないが、啓発によって劇的に投票率を向上させることができるものではないことが前提となる。効果がないわけではないが、投票率がはっきりと改善されるというのはなかなか難しい。

【ディスカッション】

オープニングトークの後、堤教授と高松市議会議員によるディスカッションを行いました。

先進地視察で訪問した他都市でも実施している投票カードの配付や移動式期日前投票所、また、若年層に対する選挙啓発等に係る内容等について討議を行いました。



【閉会】

横井副委員長から閉会の挨拶をして、高松市議会まちづくり対話会を終了しました。

堤教授におかれましては、会の開催に御協力いただき、本当にありがとうございました。